

読むと元気になる活字のビタミン オレンジ新聞

FROM ● 小山薫堂（責任監修）率いるオレンジ・アンド・パートナーズのゆかいな社員たち

第37号 2012.3.17

“グランド・ジェネレーション”の時代がやってくる

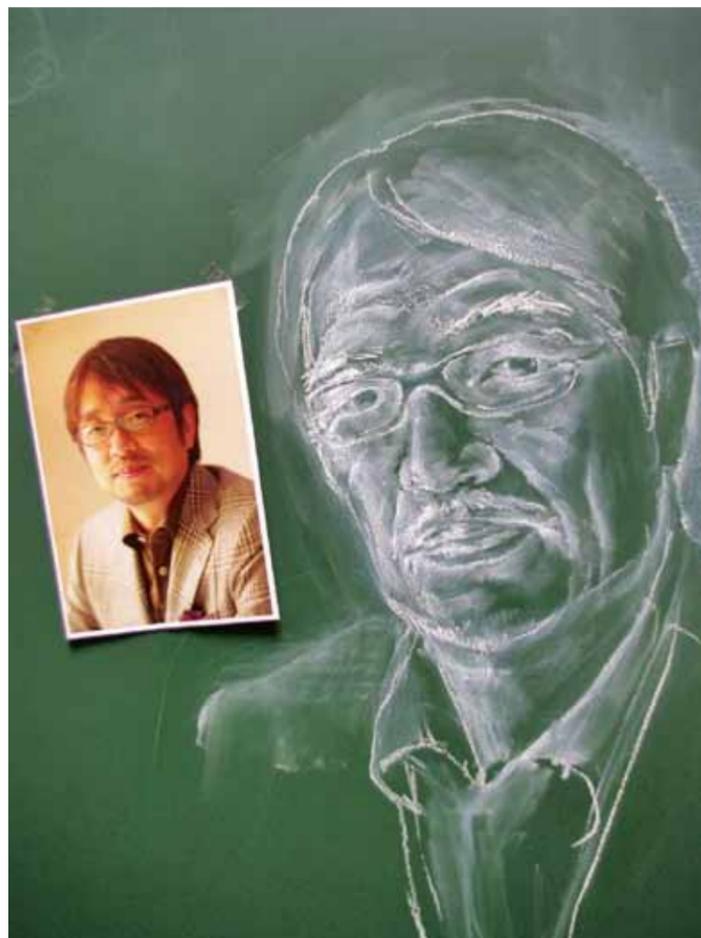
先日、小山薫堂が「グラジェネの時代がやってくる!」とつぶやいた。昨年11月、作曲家の松任谷正隆さん(60)の還暦をお祝いするパーティーを、小山がプロデュースしたときのことだ。「松任谷さんには「シニア」とか「シルバー」とかいう言葉は似合わない」と…。

そこで、「勝手にテコ入れ」を趣味(?)として
いる小山は、パワフルな団塊世代であり、センスや知識、経験が豊富、そして財産の蓄えもそれなりにある彼らを称して「グランド」という言葉で表現。「グランドファザー(grandfather)」や「グランドマザー(grandmother)」に使われている、あの「グランド」だ。「尊大な」「最も重要

な」「最高位の」といった意味もある。最上級のピアノは「グランドピアノ」、誰よりも強い勝者は「グランドチャンピオン」、ならば最も偉大なる世代は「グランド・ジェネレーション」と言うのだ。それを略して「グラジェネ」、もっと縮めて「G・G(ジー・ジー)」と命名してしまったのだ。

じい世代…、もとい「G・G世代」は若い世代の大きな目標としてリスペクトされる「雄大な世代」と言えば、なるほどしっくりくるネーミングですね。今回は、そんなグラジェネ世代にまつわるエピソードをご紹介します!

(オレンジ新聞編集長 松田龍太郎)



Ⓛ 小山薫堂の「G・G」化を想定してみることに…(イラスト:森岡淳)

ラリーで越えた世代の壁

過去のラリーで活躍したマシンでのみ参戦できる、モータースポーツファンなら誰もが知る「ラリー・モンテカルロ・ヒストリック」。過酷なこのレースに学生とともに参加したのは、オレンジ・アンド・パートナーズの「G・G」代表、森川オサム氏(64)。森川氏の参戦は11回目。経験豊富なG・Gと若き大学生の挑戦、さてどんな結果に…!?

学生たちの挑戦

私自身は1976年の初参戦から、世界選手権の「モンテカルロ・ラリー」を7回、2009年からは「ラリー・モンテカルロ・



ヒストリック」を3回経験したことになりませんが、今回はいつもとはまったく違った新しい挑戦でした。学生がマシンの準備から主催者との交渉、スポンサー探しまで、全てを授業の一環として行ったのです。

参加したのは、東京工科大学と関東工業自動車大学の学生たち。私は、彼らのチームで「実際にラリーカーに乗って走る担当」というわけです。使ったマシンは1973年式のトヨタ・セリカで、エンジンなどを育てる関東工業自動車大学の学生がレストア(老朽化した自動車を復活させる)したものです。

オヤジは最前線担当

担当教授の「大切な若者がけががしてはいけないから、危ないことはオヤジにやらせておけ」という正しい判断から、実際にラリーで走らせるのをオヤジ2人で請け負ったわけです。

Ⓛ ただでさえ大雪で苦戦する中、クラッシュして大打撃を受けたわれらのトヨタ・セリカ

準備段階からいろいろ気になることはありましたが、「これも教育!」と自分に言い聞かせました。教授ともども、できる限り口は出さず、問題点は学生たちに気付かせ、自分たちで対処するように努めました。そのため、危なっかしいことだらけでヒヤヒヤもさせられました…(笑)。

スポンサー募集中!

1月27日にイタリア・トリノをスタートしましたが、欧州大寒波に見舞われてしまい、参加した310チーム中、約100のチームがリタイアという大波乱。うちも、序盤に石垣に思いっきりクラッシュ! サスペンションにダメージを受け、その場でリタイアと思われましたが、サービス隊の必死の作業のおかげで、なんとか走行できるように復活しました。こうして懸命に働いてくれた学生の労に報いるために、走りづらいマシンでもなんとか完走。

クラッシュさせてしまい、チームに心配と余計な活動を強いてしまったことは申し



Ⓛ 大寒波の中、必死にマシンと向き合って復活させてくれた学生たち

訳なく思いました。しかし、ポジティブに考えれば、普通に走って終わっただけでは経験できなかった苦労を体験させてあげられたかな、とも思います。

1週間にわたるラリー、前半はなんとか頼りなかった学生も、実戦を通じて、後半ではとてもしっかりしたのを見守ることもできました。来年も全員入れ替えて挑戦するそうで、とても楽しみです。ちなみに、スポンサー募集中だそうです。(森川オサム)

身近にも素敵なG・Gが…

先日、郵便ポストに一通の封筒が入っていました。差出人が書かれていません。不思議に思いながら開けてみると、中にはなんと34枚の宝くじ=写真。差出人はお義母さんで、その日は私の34歳の誕生日だったのです。しかも宝くじを買ったお金は、東北の被災地支援にもなるというグリーンジャンボ宝くじ。もらった方も良いことをした気分になる、ちょっとうれしいプレゼントでした。

ユーモアとハッピーにあふれた、グラジェネからのサプライズ。私たちも見習わなければなりませんね。(友樹)



編集後記

薫堂さん、
88になるまで
よろしく!!

Ⓛ オレンジ副社長の軽部政治(イラスト:森岡淳)

(株) オレンジ・アンド・
パートナーズ編集部

ご連絡先
ex@orange-p.co.jp

お便り・ご感想も
お待ちしております。

Webサイト
www.orange-p.co.jp